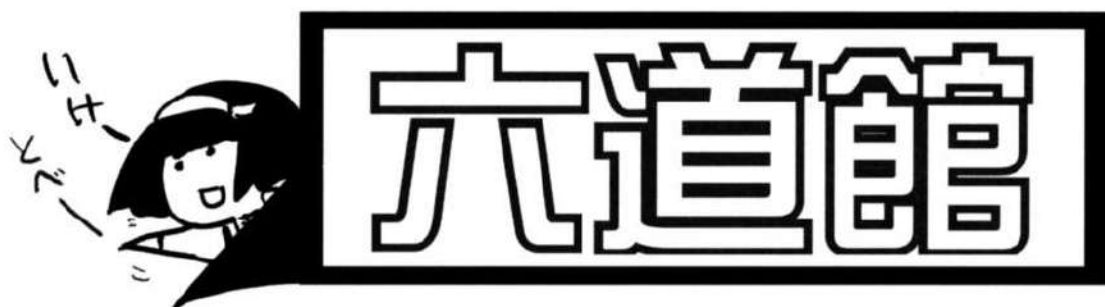
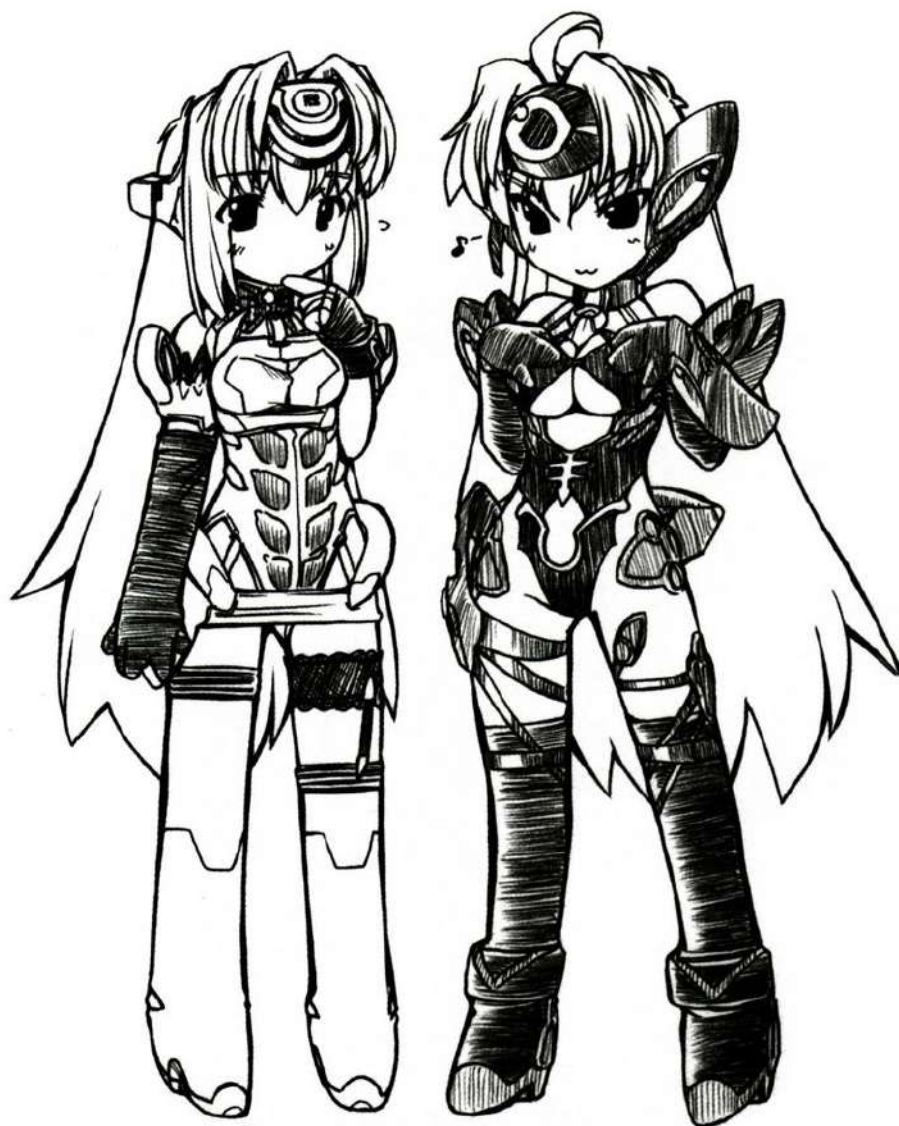
後書き

わざわざこのような雑文に最期まで目を通していただきまして、
初めましての方にもお久しぶりですの方にも感謝致します。
こんにちは、六道神士です。
この度、ウルトラジャンプ誌上にて「メビウスギア」という
原作モノの連載を始めまして、この本の内容はその際のラフや
設定になっております。
裏話や雑文はおまけですので、読む端からメモリー消去する
ことをお勧めします。
ていうか忘れて下さい、この本原作者の井上敏樹先生には
内緒なんです、万が一この本を見ているあなたが関係者の
場合は……すんません、見逃して下さい。
井上先生と打ち合わせをすると、必ずと言っていいほど
自宅に招かれて手作りの料理を振る舞われます。
ご相伴にあずかる料理と酒の美味いこと、食材の仕入れ方の
ハンパ無いこと、どれもウワサに違いません。
完全に餌付けされたところからこの仕事は始まりました、
ひとんちでエスカルゴ喰ったのも初めてなら、あんなに
容赦なく美味いと思ったのも初めてでしたし。
だから仕事を決めたというわけでもないのですが………
いや………この話に今結論を出すのはやめておきます。

良い具合に文章も支離滅裂になってきたところで、この本の
編集協力をしていただいた方々に感謝しつつ。
それではまたの機会に、失礼致します。

奥付

誌名：六通 vol.1
発行：六道館
編集：LeeRue（時ポ砲）
編集長：Jun686（時ポ砲 jun686@c-jph.com）
発行日：2008年4月27日
発行イベント：COMIC1 ☆2
URL：http://www.rikudoukan.com/

An Anonymous Scanner Production

http://www.anonymous-scanner.net/

六通 by 六道館 vol.1

制服設定

真理亜 イメージラフ

静馬 イメージラフ

マシーネイメージ

本誌掲載イラスト

今回出番ナシ
⇓

ウルトラジャンプ
表紙イラスト ラフ

ウルトラジャンプ
プレス用カット

学校設定

サブキャラ・ボツキャラ集

ヒミツの未登場キャラ

六道神士 ウルトラジャンプ連載中

特集！

制服

5.〜6月中旬　10〜11月中旬

中間服

キャラ制服設定、中間服なのに黒多すぎで熱そうです。
こちらは主人公と女キャラA、ヒロインじゃないです。

校章別データ

ソデ20%

スカート
ズボン
ソックス
バラバラで

ハイソなのはムイコだけ
他はロー..

室内ばきも黒..

こちらヒロイン案初稿です。
伝奇モノとのことで、陰鬱な設定のキャラが多いのだろうと
勢い込んでキャライメージの話し合いに望みました。
原作の井上敏樹先生は細かいことは一切気にしない
ナイスアニキですので、当初は「ショート・小柄な」以外、
年齢もイメージも自由でよいとのこと。
なんとなくイメージをばらして８種類くらい
(画面上に４つしか無いのは未登場キャラに流用予定なので)
プレゼンした結果、Ａをベースにとの流れ。
ちなみに初稿ギリギリまでキャラ年齢２０歳くらいと
聞いていたのですが、学園モノが始まって私もビックリです。

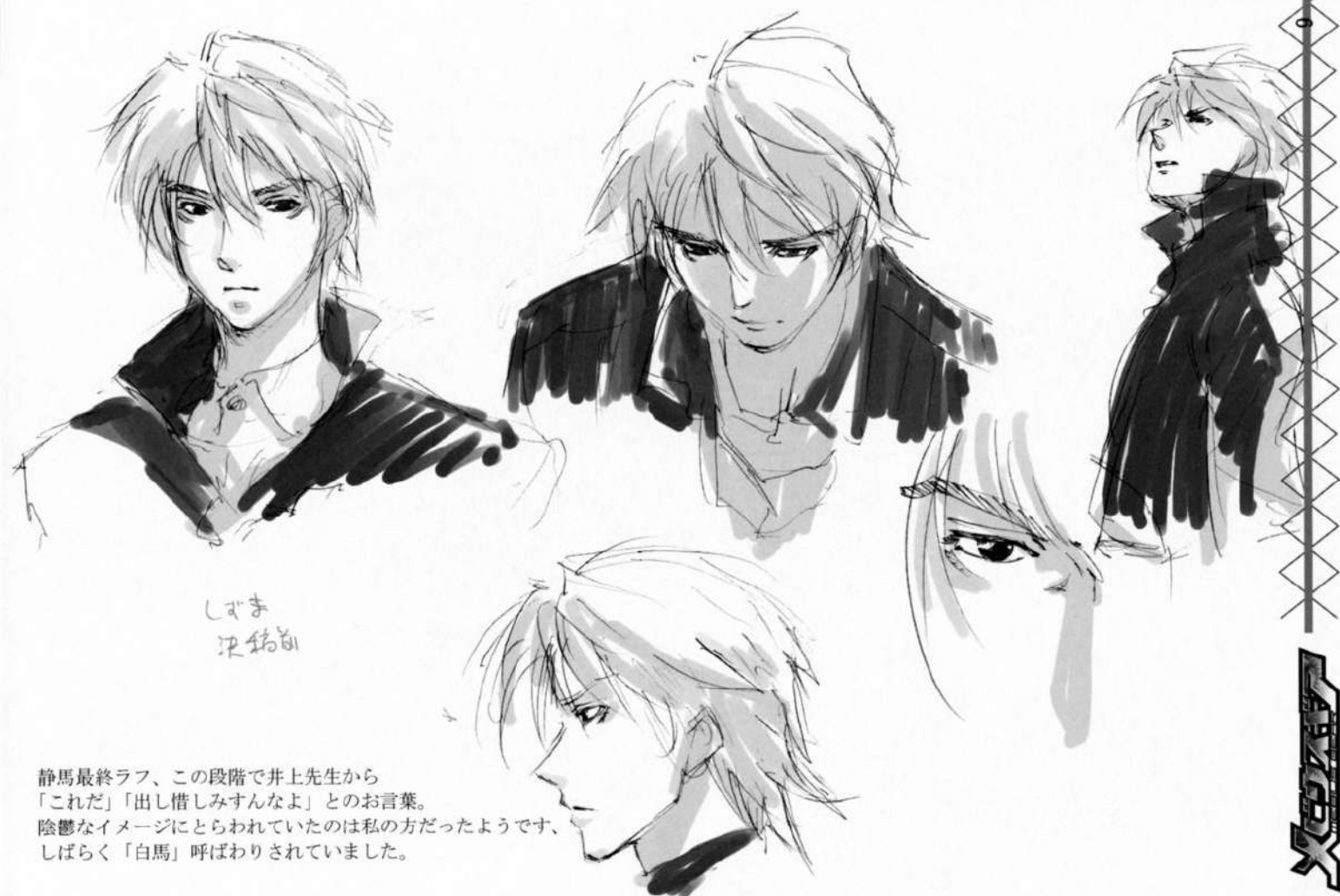
ヒロイン決定稿、柊真里亜（ひいらぎ　まりあ）
コメディ要員、子犬系、ミーハー、狩人という、
３話の扉絵で担当に、「まりあさん、
あなたがわからない」とアオリを入れられた難解な多重キャラです。

「本当にこの描写でいいんですか！」と直に不安をぶつけると、井上先生に「アレがこうでコレがこうなるから今はコレでいいんだ」
と言われて納得するのですが、
この先生、今演出して欲しくない事は説明したがらないタチですので、描く側はなんだか綱渡り気分です。
でも美味しい手作りチャーハンを振る舞っていただきながら、「可愛く描けな」と言われたので、気にせずがんばります。

具体的なプロットが無い頃のイメージのやりとりです、
時代もイメージも原型はほとんどありません、
初対面の段階で、「すんません、コメディばっか描いてきたヘタレですんで
重厚な描写を期待しないで下さい」とか職業作家にあるまじき本音を
ぶっちゃけておいたのですが、どうしてもそれを謙遜だと受け止められて
しまうので困っていました。

主人公……なんだか久々に男の主人公です、
おばかなオンナとかヘンな物体が主人公の漫画ばっかり
描いてきたので新鮮です

これも掲載画像分以外のラフは未登場キャラに割り振られました、
主役だけあってイメージのすりあわせに一番時間がかかりました。
自分の男キャラの引き出しの狭さに愕然としつつ、
そういやオンナキャラの引き出しも狭いぞと暗転し多挙げ句、
「クリーチャーの引き出しなんて無いじゃん」と泣きべそをかきながら
深みにはまっていったわけです。
麻婆豆腐の美味辛さで苦労も忘れていましたが。

名前が決定した後も決定稿に至らず。
だいたいこれで行くかなと寸前まで生きてたラフです。
影をしょった成人男性、………？寸前だというのに今となんか違います。
先生の所で飲んだ無銘の焼酎がいい塩梅だったので、きっとなにか勘違いしていたのでしょう。

静馬最終ラフ、この段階で井上先生から
「これだ」「出し惜しみすんなよ」とのお言葉。
陰鬱なイメージにとらわれていたのは私の方だったようです、
しばらく「白馬」呼ばわりされていました。

主人公・離静馬　決定稿です。

男と言えば馬鹿と変態しか
描いてこなかった自分に、「カッコイイ男主人公」
なんて描いていけるんだろうかと不安に
おののきながらの脱稿。

「いつまでも脱力漫画を描いていくつもりかよ！」
「イエス」
と返していた自分にとっては大いなる大冒険です。

そして主要キャライメージが固まった後、
第一話のシナリオ初稿がアップ！
覚悟を決めて取りかかります、
どんなムチャが待っていても、
あの地鶏の味を思い出せばがんばれそうな気がします。

舞台・高校。
主人公・高校生。
スペック・かっこいいがチェーンの外れた自転車。

あれ？初期設定が残って無い。

クリーチャーイメージ（呼称・マシーネに決定）
妖怪＋歯車＋からくり人形という、見事な先達のいらっしゃる荷の重いジャンルです。
がんばっても結果が全てのこの世界、泣きそうなので言及は避けます。
美味しいモノを食べられる間は折れません。

そして連載前、「予告カットをよこしやがれ」との担当のお言葉。
「サイズはいかほどでしょう」「熱意の分だけ！！」と担当のやり取りの結果、

見開きサイズで送りつけました。

担当編集氏とその上司の間で、担当作家の手綱についてどのような論議が交わされたかは分かりませんが、無事掲載されたようです。

連載初回雑誌表紙ラフです。
乳首に色塗って提出したら、「ふざけんな」とリテイクの指示が来ました。

考えてみれば当然です。
通常の雑誌コードを忘れがち……というか、あまりに野放しだった過去の仕事の数々に、
今更ですが戦慄したりしました。
「考えてみればあたりまえか」という事例の多い、勉強になる連載です。

ウルジャンプレス用のカット、左に井上先生のサインが入ってました。
先行して描いたモノなので、主人公のイメージに過去の勘違いの残滓があります。
無断でヒロインをボヘキャラに描いたので、井上先生が気を悪くしないといいなとか
思ってたのですが、今にしてみれば結果的にイメージ間違ってませんでした。

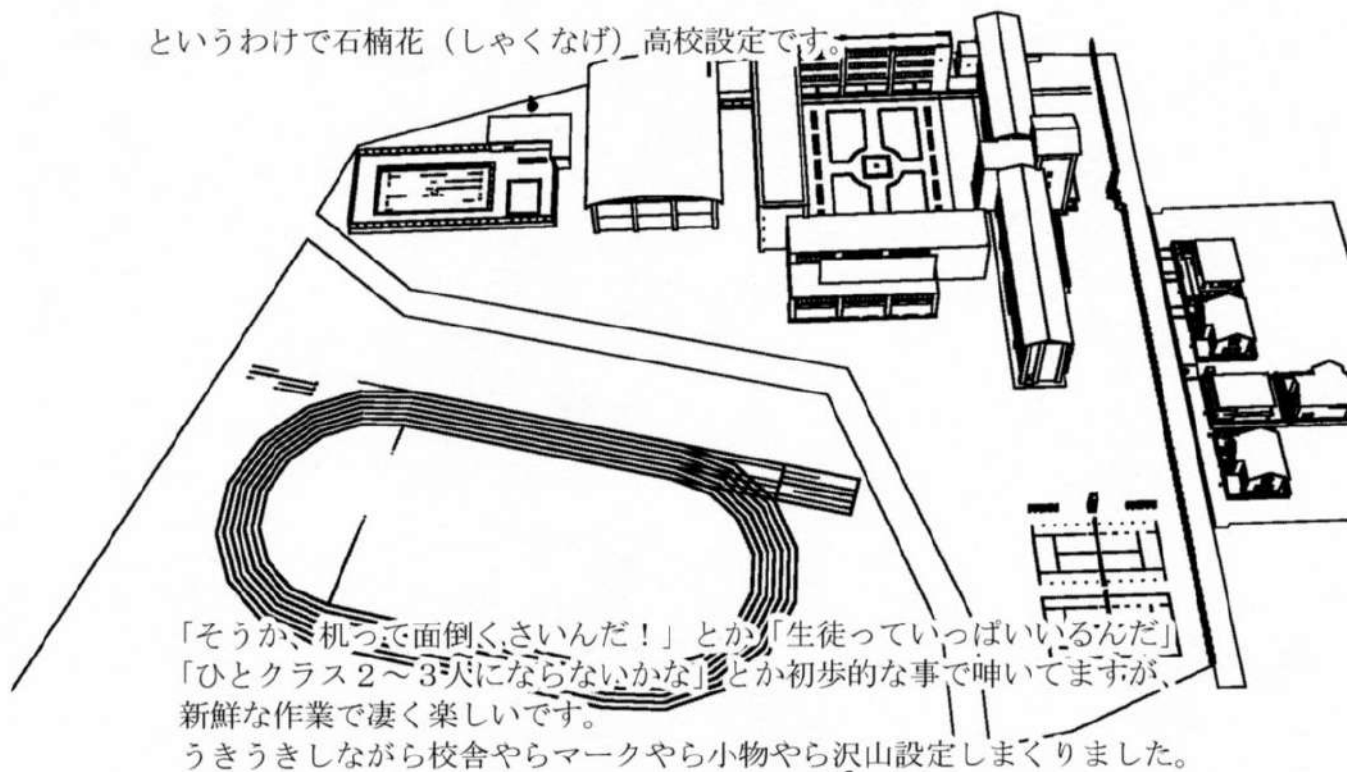
ヒロインの操るマシーネ・怒愚羅です。
イメージ指示、「髑髏の頭部」「体中に暗器」「歯車の駆動機構」「かわいくな」………ん？ひとつ仲間はずれがいる！

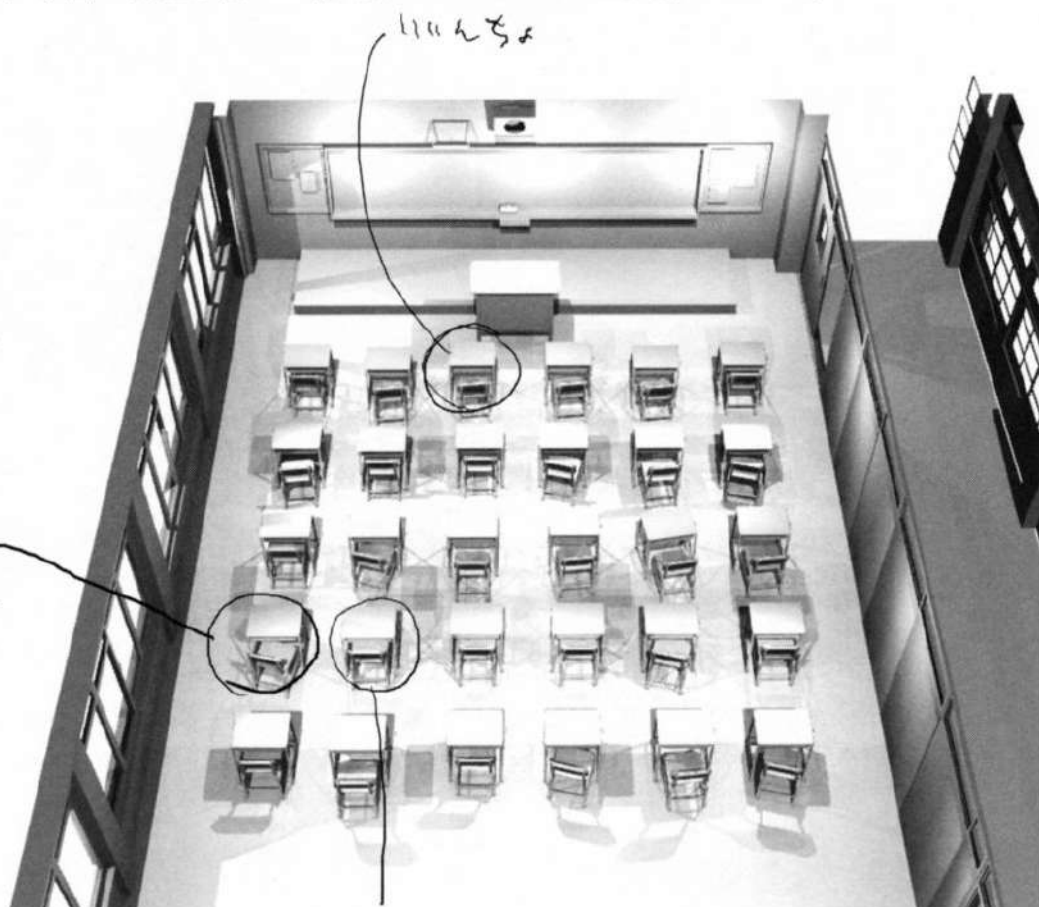
ムチャ振りに応えられてこそのプロだと思います、自分の出来てなさっぷりに色々漏らしそうです。

学園モノって初めて描くよ！

………あれ？そうだっけか………

はい、他連載のお遊び外伝以外ではやっぱり初めてです。

というわけで石楠花（しゃくなげ）高校設定です。

「そうか、机って面倒くさいんだ！」とか「生徒っていっぱいいるんだ」
「ひとクラス２〜３人にならないかな」とか初歩的な事で呻いてますが、
新鮮な作業で凄く楽しいです。
うきうきしながら校舎やらマークやら小物やら沢山設定しまくりました。

――――一話以降、学園が舞台な話が一話も無いのは大いなる誤算でしたが。

れいこリン、ていうか重要キャラって言われてたキャラなんですが、
一話で出番が終わるとは計算外でした。
この作品、私のパートの７割は誤算と計算外でできている気がします。
一話で死亡
近年の洋ドラでは、主要スタッフ以外、
役者にも他演出スタッフにも先の展開を
秘密にして制作するやり方が流行っているそうです。
犯人役の役者ですら、直前まで自分がそうとは知らされず、
無意識の伏線演技や演出を回避する手段として使われているそうです。
「主要スタッフ以外」とか自分で書いててなんか泣きそうですが、
おつまみのチーズとソーセージがやたら美味かったので頑張ろう、
いや、頑張ります。
メビウスギア

５話あたりに出てくる敵の方々ラフです。
おっさんキャラはいつまでも描いてしまうので、
楽しいけれど手間がかかってしかたありません。

ちなみに余談ですが、井上先生の仕事場に行くと
いろんな方とお会いします。
役者さんやら業界の方々やら飲み屋のお姉さんやら、
なんだか謎めくラインナップですが、
見事な人から真性の変態さんまで多士済々です。

「ＡＶ監督をやってます」って方も
おられました。
あの膨大な消費ジャンルですので、
さすがにその方も自作のあげての
自己紹介はしませんでしたが、
飲んでいる内に「ご存じないとは思うのですが」
と奥ゆかしく自作品の事を話して下さいました。

「爆乳戦隊チチレンジャーという……」

「持ってます」

その後、小一時間チチレンジャートーク。
なんだろう、あの仕事場。

第一話冒頭で出てくる敵マシーネラフ・花嫁・新郎（担当編集バージョン込みです）。

凶器についてですが、言葉で「型抜き器が顔をくりぬいて」と描いてあって、
小一時間夢想しました。
もういっそ、ファンシーに星形にしようかとか涙目で担当に提案したところ、「
逃げちゃダメだ」と担当様オリジナルの有り難いお言葉をいただいて、
直球に逃げる（逃げてんじゃん）ことにしました、型抜き器。

あ、余談ですが、
自分の本名のファーストネームは
「シンジ」でして、昔某三石様に
「シンジ君、頑張って」
とナマで言って貰った経験があります。
このことを友人に自慢すると、大抵
「この変態めが」と褒めてくれるという、
自慢の余談です。

このあたりはまだ未定のキャライメージです、
おそらく原型をとどめないでしょう。
当初のプロットを基準にする限り、
現在の展開はほぼプロローグです。
それで数巻いきそうです、
本展開とサブ展開でその数倍ありそうです。

さらに送られてくるシナリオが膨大です。
一話は当初48ページを予定していたのですが、
「コンテが80ページになりました」という
泣きの電話を担当に入れた結果、
井上先生にもシナリオを削っていただいて、
60ページに増量することで間を取りました。
ＴＶの仕事がメインの先生ですので、
どうやら30分番組一本分で一区切りという分量が
身についていらっしゃるようです。

………30分番組一本分のシナリオを漫画30ページに
納めるのは結構難しいと思います。
しかし、「これくらいないと読み応え無いだろ」との
漢のセリフと、美味しい上海ガニの事があるので、
必死でついていきます。